


 いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

～ 専門高度診療センターの開設 ～

いわき市立総合磐城共立病院 院長 樋渡 信夫



総合磐城共立病院は茨城県北部を含む福島県浜通り地区の中核病院として、地域と連携し、高度医療、先進医療、救急医療の充実に努めております。

一方で、近年の高齢化の進展、生活習慣病の広がり、新たな治療法の開発など、医療を取り巻く環境の変化は著しく、また患者さんもさまざまな情報を得て、そのニーズも多様化してきております。

このような現状の中で、当院では最新の医療技術や機器の導入や、複数の診療科が共同で診療を行うことにより、福島県はもとより、全国的にもハイレベルな治療成績を上げている分野があります。

そこで、これらの分野について、対象となる疾患や診療内容をわかりやすく伝え、高度先進医療をいわきの地で受けやすくすることを目的に、既存の「地域周産期母子医療センター」にはセンター長をおいて充実を図ることとし、加えて新たに5つの専門高度診療センターを5月17日付けで開設いたしました。

これにより、かかりつけ医の先生方はもとより、患者さんやその家族、さらには市民の皆様は診療内容などの情報を伝え、病診・病病連携を一層円滑化し、より多くの皆様に当院の高度先進医療を受けていただくことを期待しております。

各センターの概要を次ページの表で簡単に紹介いたします。詳細については、本誌で順次掲載いたします。

診療所、病院からの問い合わせは、当院の地域医療連携室にお願いします。市民からの問い合わせは、疾患の診断がまず必要なことから、必ずかかりつけの診療所、病院を介してお問い合わせくださいますよう、お願いいたします。



【いわき市立総合磐城共立病院 地域医療連携室】

電話 0246(26)2250(直通) FAX 0246(26)2119
 URL <http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp>
 E-mail kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp



(1) 地域周産期母子医療センター

センター長 三瓶 稔 (産婦人科)

関連科

産婦人科、NICU、
小児外科、小児科

指定地域での妊娠母体の早産や異常分娩の危険性が想定される場合、産後新生児に異常が見られる場合など、ハイリスク妊娠及び新生児に対応した高度な周産期医療を行っています。

【外来開設日】 月曜日～金曜日 (※救急時24時間対応)

(2) 小切開心臓手術・大動脈ステントグラフトセンター

センター長 近藤 俊一 (心臓血管外科)

関連科

心臓血管外科、
循環器内科

心臓の弁置換術に際して皮膚切開部分を大幅に小さくする「低侵襲(ていしんしゅう)心臓外科手術」を東北で初めて導入しています。また、胸部、腹部大動脈瘤については、大腿動脈からカテーテル(管状の治療器具)を通じて、ステントグラフト(バネ付き人工血管)を血管に挿入する手術を行っています。

【外来開設日】 月曜日、水曜日 (大動脈ステントグラフトは、救急時24時間対応)

(3) 心血管治療センター

センター長 山本 義人 (循環器内科)

関連科

循環器内科、
心臓血管外科

心臓及び四肢の血管に対するカテーテル治療を主として行います。カテーテルを使い、血管へ通して、異常のある心臓の冠動脈まで到達させて治療を行う「冠動脈インターベンション(PCI)」をはじめ、末梢血管拡張術(PPI)、腎動脈拡張術などによる治療を行っています。

【外来開設日】 月曜日～金曜日 (※救急時24時間対応)

(4) 人工関節センター

センター長 相澤 利武 (整形外科)

関連科

整形外科

変形又は破壊された肩関節、股関節、膝関節を金属性の人工関節に置き換える、人工関節置換術などの手術を行っています。

【外来開設日】 月曜日・水曜日・金曜日

(5) 肝炎対策センター

センター長 中山 晴夫 (副院長・消化器内科)

関連科

消化器内科、
外科

B型、C型肝炎に対する適切なインターフェロン治療計画を立て、最新の抗ウイルス薬治療を実施するとともに、肝癌の肝動脈塞栓術、ラジオ波焼灼療法、肝切除術など、内科的・外科的治療を駆使しながら、肝硬変症、肝細胞癌の予防、診断、治療を行っています。

【外来開設日】 月曜日～金曜日 (※救急時24時間対応)

(6) 炎症性腸疾患センター

センター長 樋渡 信夫 (院長・消化器内科)

関連科

消化器内科、
外科

原因不明の難病である潰瘍性大腸炎、クローン病について、確定診断と最新の治療を行います。

【外来開設日】 水曜日 (午後)

※ 受診に際しては、疾患の診断が必要となることから、かかりつけの診療所、病院を介して地域医療連携室にお問い合わせくださるようお願いいたします。

◎ センターに関するお問い合わせ先

総合磐城共立病院 事務局 経営企画課 ☎ 0246-26-2168

診療科 紹◎介

小切開心臓手術・大動脈ステントグラフトセンター

センター長

近藤俊一、廣田 潤、山部剛史

広く市民に当院で行っている高度医療を分かりやすくするために、2010年5月より当院に開設された心臓血管外科、循環器部門のセンターです。

当科では、高度先進治療の2本柱として、より、小さな切開で胸骨を切開しないで行うポートアクセス心臓手術と、胸部、腹部大動脈瘤に対して、血管内で治療を行う大動脈ステントグラフト内挿術に積極的に取り組んでおります。

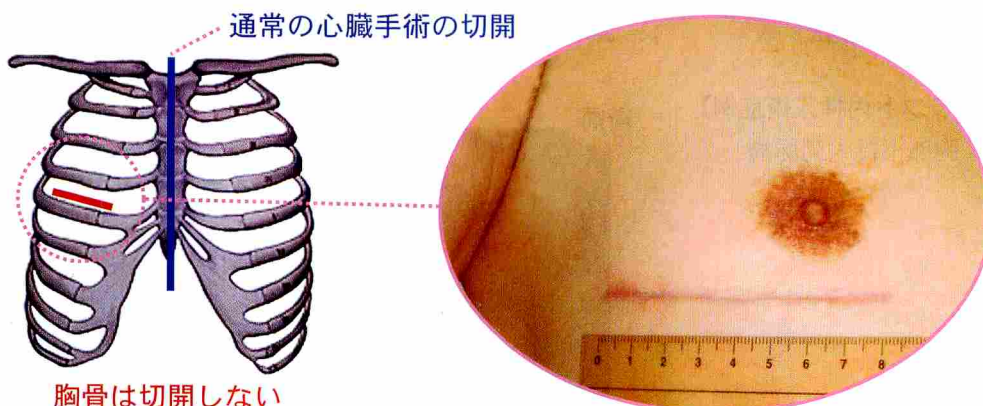
ポートアクセス心臓手術

肋間開胸によるポートアクセス心臓手術は欧米では広く普及しはじめており、僧房弁手術では第一選択であるといっても過言ではありません。そのような手術に特化した特別な手術器具、および技術で安全に手術が可能です。



当科では僧房弁、大動脈弁手術、心房中隔欠損孔閉鎖手術に導入しており、北関東、東北、北海道では今のところ当院でのみ行われています。

美容上の問題はもちろんのこと、痛み、身体全体への負荷の面でもより、体に優しい手術です。



大動脈ステントグラフト内挿術

高齢化社会の進行は事のほか、早く進んでおり、80歳台の手術が急増しております。心臓血管外科治療は、近年めざましい進化をとげており、以前は難手術であった、弁置換手術や、冠動脈バイパス手術は安定した成績となっております。しかし、高齢者の胸部動脈瘤に対する手術は、いまだ手術死亡率、術後合併症の発生率において安全とは言いがたい状況です。また、腹部大動脈瘤はサイレントキラーとも言われ、破裂するまでまったく症状がなく、一度破裂すれば、致死率90%にも達する、恐ろしい病気です。破裂前の開腹手術による人工血管置換手術は、手術死亡率1%と比較的安定した成績ですが、全身麻酔による開腹手術が必要であり、高齢者や、併存症のある患者には負担の大きな手術です。2007年から国内で使用可能となった大動脈ステントグラフト内挿術は、両足（胸部では片足）の付け根の部分に4～5cmの切開のみで手術を行うことができ、基本的には全身麻酔で行いますが、全身麻酔の困難な症例にも、局所麻酔、硬膜外麻酔、脊髄麻酔で行うことが可能な画期的な治療法です。また、今まで通常の開胸手術では対応困難であった、胸部大動脈瘤食道瘻や胸部大動脈気管支瘻といった疾患にもステントグラフトが非常に有効です。

まだわずかではありますが、当科では大動脈解離や、破裂性の動脈瘤にも適応しており、良好な成績です。

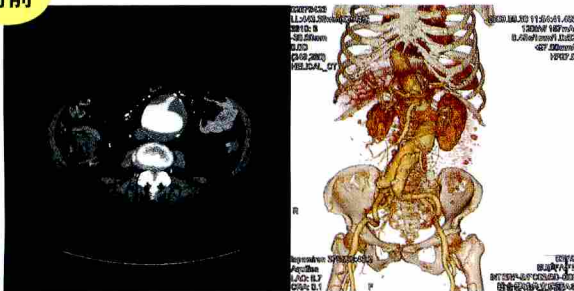
通常の開腹や開胸による手術ではどんなに順調に経過しても10日から14日の術後入院期間が必要でしたが、ステントグラフトでは、手術日から食事、歩行が可能な状態で、3日～7日程度の術後入院期間で治療が可能となっております。

ステントグラフト治療は関連10学会によるステントグラフト実施基準管理委員会で厳格に管理されています。現在国内で使用可能なステントグラフトは、腹部3機種、胸部2機種です。この手術を行うためには、施設基準に加えて、実施医資格、指導医資格が必要ですが、当科は、現在使用可能なすべての機種の手術指導医資格を有しております。

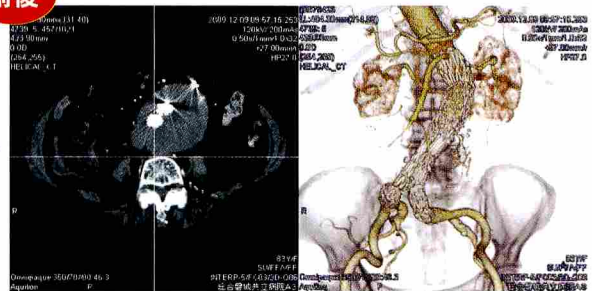
現在、全国有数の月間10例前後のステントグラフト治療を行っており、良好な成績です。

【腹部大動脈ステントグラフト内挿術症例】

術前



術後



【胸部ステントグラフト内挿術症例】

78歳男性 胸部下行大動脈瘤

術前



術後



病棟の 紹介

回復期リハビリテーション病棟

内科・リハビリテーション科医師

皆川 夏樹

はじめに

共立病院の回復期リハビリテーション病棟は、2009年5月から患者さんの受け入れを開始し、様々な基準をクリアした上で、2009年の12月から正式な認可、稼働を開始しました。

回復期リハビリテーション病棟は、一言で言えば、「急性期の治療（点滴・手術など）は終わったけれど、障害が残って自宅の生活が困難である」といった状態の方に対して、集中的にリハビリテーションを行って、自宅へ帰るためのサポートをするために特化した病棟です。

回復期リハビリテーション病棟に入院するための条件は、施設基準として決められていて、どんな方でも入院できる、というわけではありません。大まかに病名で言えば、「脳卒中（で、後に麻痺などの障害の残った方）」「脊髄損傷」「骨折」「大きな手術後」「重症肺炎」などで、共立病院の場合には、特に脳梗塞の患者を専門的に多く受け入れています。従って、いきなり最初から直接入院できる病棟でもないわけです。

他院からの受け入れ

回復期リハビリテーション病棟は、もちろん他の病棟も全てそうなのですが、地域の共通財産です。たとえば、「他の病院で脳梗塞の治療をしたけれども、リハビリテーションを継続して専門的に行いたい」、という場合には、地域医療連携室を通じて御相談いただければ、転院も受け入れ可能です。

回復期リハビリテーション病棟の特色

回復期リハビリテーション病棟には、他の一般病棟と違って、いくつかの特色があります。

① 食堂・浴室・トイレ

なるべくベッドから離れる機会を増やすために、また、なるべく家にいたときに近い形で、当たり前の姿勢で食事をするために、みんなが集まれる食堂があります。背の高さに応じて、いす・机の高さも変えられるようになっています。浴室も、家に帰ってからの入浴の練習を意識して、家庭用のユニットバスも用意しています。トイレはもちろん、車椅子のままでも入れるように、手すりも何パターンも備えてあります。

〈食堂〉



② 病棟隣接リハビリスペース

病院全体のリハビリ訓練室もあるのですが、病棟すぐ脇のスペースに、訓練台や、トレーニングマシン・平行棒を用意して、なるべく移動の時間もとらずに、また、病棟のスタッフも目の届く場所でのリハビリテーション訓練が可能となりました。

③ ケアカンファレンス

回復期リハビリテーション病棟では、出来る限り、患者さんたちがもとあった生活の場所へ帰ることを目標としています。今目的には、多くの場合に介護保険の関与・ケアマネージャーとの連携が不可欠となっており、入院中からケアマネージャーさんにも参加してもらっての退院調整を行っています。

「共立病院の」回復期リハビリテーション病棟の特色

上に挙げたような項目の他に、共立病院で独自に取り組んでいる項目がいくつかあります。

① 早朝リハビリテーション

ある程度動きの良くなってきた方は、朝食前、6時から7時20分頃まで、②の病棟隣接リハスペースで、立ち上がり訓練・歩行訓練・マシントレーニング等を行って、早朝から汗を流しています。

② 学生ボランティア

土曜日の午後には、いわき総合高校・磐城桜が丘高校・いわき短期大学などの学生ボランティアの方々に参加してもらって、患者さんたちを屋外に連れ出して散歩や屋外歩行練習をしたり、といった活動も行っています。



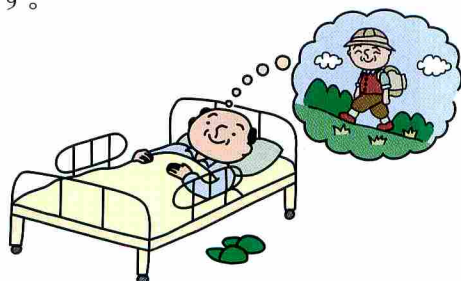
〈学生ボランティア〉

③ 摂食嚥下リハビリテーション

リハビリテーション全般に取り組んでいますが、担当医が特に積極的に注目して取り組んでいることに、摂食嚥下リハビリテーションがあります。上手に食べ物・飲み物が飲み込めない・食べられない、といった方への専門的な対応を行っています。



〈作業療法の様子〉



4 在宅訪問診療

障害を抱えた状態で退院をしたあと、在宅での生活に不安が大きい方、通院することが困難な方、等おられます。必要な場合には、退院後しばらくは担当医がご自宅へ訪問診療を行い、スムーズに在宅生活へ移行できるよう応援します。



〈退院後、在宅へお伺いする〉

おわりに

回復期リハビリテーション病棟から退院する方の中には、どうしてもそれまでのご自宅に帰ることが困難で、施設に入所したり、療養病棟のある病院へ転院される方もおられますが、現在までのところは、80%以上の方が、ご自宅へお帰りになっています。

私たちは、障害を抱えた患者さんが、なるべく、これまで生活をしてきた場所に帰って、少しでもこれまで通りに近い生活を送れるようにサポートすることを心がけて、精一杯努力していきたいと思えます。

病棟内の設備



〈洗面所〉



〈トイレ〉



〈お風呂：自宅に近い状態で〉



〈トレーニングマシン〉

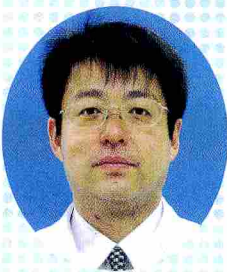


消化器内科
池田 智之 医師



市立常磐病院より消化器内科に異動となりました池田智之と申します。常磐病院には平成15年より6年間勤務させていただきましたが、引き続き地域医療のためにがんばりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

消化器内科
上野 孝治 医師



平成5年から9年まで当院で研修させていただきました。地元であるいわき市で働けることになり大変嬉しく思っています。公私共に何卒よろしくお願い申し上げます。

消化器内科
椎名 正明 医師



東北大学消化器内科から異動になりました。いわきに来たのは、学生見学以来、16年ぶりです。ウイルス性肝炎と自己免疫性肝疾患を専門に診療しています。よろしくお願い致します。

消化器内科
堀井 享 医師



東北大学、平成14年卒です。専門は上部消化管です。出身は秋田市です。学生時代は野球で投手をやっていました。バスケも好きです。趣味はドライブ、麻雀、ゲームなど。早く慣れたいと思います。よろしくお願い致します。

消化器内科
渡部 敬之 医師



静岡で研修後、地元に近いいわき市に来ました。主に消化器内科にて診療に携わります。よろしくお願い致します。



新任医師紹介

1

循環器内科
浅海 泰栄 医師



今年4月より赴任しました。いわき地域の医療に少しでもお役に立てればと思っています。よろしくお願い致します。

糖尿病・内分泌科
金田 史香 医師



5月1日付で、糖尿病・内分泌科に赴任いたしました金田です。御迷惑をおかけするかもしれませんが、頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。

整形外科
菅野 敦子 医師



菅野敦子です。3月まで東北大学院で基礎研究を行いました。久々の第一線の病院への復帰となります。相澤部長の下、肩関節を中心に多くのことを学んでいきたいです。よろしくお願い申し上げます。

整形外科
加藤 欽志 医師



平成22年4月より着任しました加藤欽志です。1日でも早く病院に慣れて、仕事を充実させたいと思っています。よろしくお願い致します。

整形外科
養川 創 医師



平成22年4月より、九州の福岡大学病院から赴任いたしました。磐城共立病院で整形外科医として、少しでも地域の医療に役立てるように頑張っていきたいと思っております。よろしくお願い致します。



形成外科
渋谷陽一郎 医師

水戸済生会総合病院から来ました。
福島県内での勤務は初めてです。
よろしくお願いします。



形成外科
高橋 典子 医師

4月より磐城共立病院でお世話になります高橋と申します。
数多くの症例を学べるこちらの病院で働けることを嬉しく思っています。
一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。



泌尿器科
福士 太郎 医師

今年から磐城共立病院泌尿器科に赴任することになりました福士太郎です。
自分はまだ医師4年目のため、色々と足りないところやできないところがあり、皆様に御迷惑をおかけしてしまうかもしれませんが、よろしくお願いします。



産婦人科
片寄 治男 医師

約1年間、お世話になります。
少しくたびれていますが、よろしくお願いします。



歯科口腔外科
佐藤 浩子 医師

再び磐城共立病院で勤務することができ、とても幸せに思います。
福島県浜通り地区の歯科医療に貢献できるよう精一杯努力します。
皆様の御指導よろしくお願いします。



新任医師紹介

2



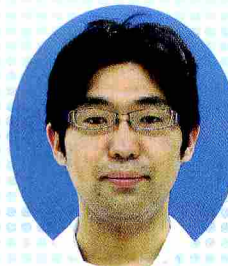
未熟児新生児科
片岡 愛 医師

未熟児新生児科の片岡です。
赤ちゃん大好きです。赤ちゃんの生命力に感動し、Angel Smileに和まされる日々です。
よろしくお願いします。



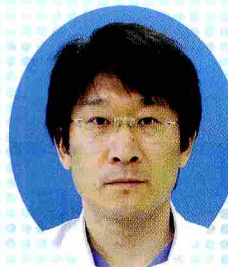
麻酔科
関谷 芳明 医師

「安心、安全、信頼できる麻酔」をモットーに日々頑張っていきたいと思えます。
よろしくお願いします。



麻酔科
黒井 信宏 医師

筑波大学附属病院麻酔科所属、医師6年目の黒井です。
いわきは食事も美味しいし、温泉も近く住みやすい街だと思います。
忙しい中にも、充実した毎日を送っています。
ちなみに趣味は麻雀です。
お誘い待っています。



救命救急センター
大楽 英明 医師

4月から常磐病院より異動となりました大楽英明です。
救命救急センターに勤務しています。
よろしくお願いします。



22年度研修医
四條 正浩 医師

4月より研修医としてお世話になっております四條正浩です。
まだまだ知らないことは多く、御迷惑をかけることと思いますが、よろしくお願いします。

22年度研修医
菅谷 憲太 医師



4月より磐城共立病院にて勤務することになりました。
働き始めて自分の力不足を痛感しておりますが、皆様の御尽力を得て1日1日を生きていきたいと思っております。

22年度研修医
鈴木 淳美 医師



研修医1年目の鈴木淳美です。地元に戻ってきて改めていわきの良さを実感しています。
この病院で勉強させていただく上で、お世話になることが多いと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



新任医師紹介

③

22年度研修医
須藤 円 医師



研修医1年目の須藤円です。
いまだ身を粉にできずにありますが、徐々に砕いていく所存です。
どうぞよろしくお願いいたします。

22年度研修医
八木 大輔 医師

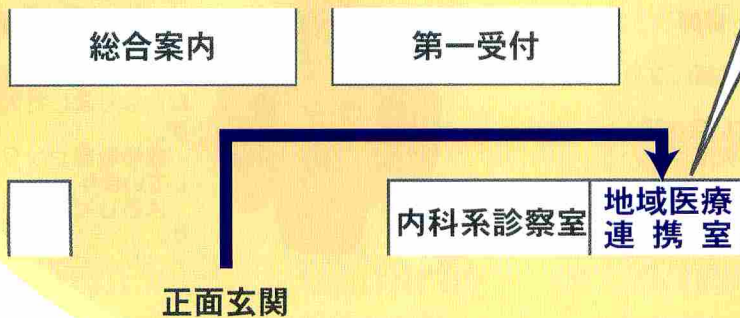


歯科研修医の八木大輔です。
分からないことだらけの研修生活がスタートし、あっという間に3ヶ月が経ちました。
先輩方にはこれから沢山お世話になると思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

地域医療連携室のご案内

地域医療連携室は、正面玄関を右側、内科系診察室の隣にあります。

当院へお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



地域医療連携室業務時間

月～金 8:30～17:15

